

パナソニックは、2011年4月より従業員の仕事のスキルや経験を活用してNPOを支援する「Panasonic NPO/NGOサポートプロボノプログラム」を開始。従業員の社会課題や多様性への理解が深まり、自己効力感・主体性が高まるなど、仕事にも活きる経験となっている。



## NPO、「プロボノワーカー」と出会う。 適度の緊張感、多様なキャラクターとの協働作業による 刺激と創造

NPO法人「花と緑のネットワークとよなか」は昨年、プロボノチームの支援を受けて、ホームページのリニューアルを行った。

「プロボノ」とは、一般社会人が自身のスキルや経験を生かして行うボランティア活動で、新しい社会貢献のかたちとして注目されている。関西で本格的に始まった「NPO×プロボノワーカー」の新たな出会いは、両者にどのような化学反応を起こしたのか。プロジェクトを終えた同団体とプロボノチームに取材した。



### 発足から10年。 継続のためには変わらぬ必要があった

「いやー、正直、最初はプロボノプログラムに参加するかどうか迷ったんだよね」

そう打ち明けるのは、NPO法人「花と緑のネットワークとよなか」（以下、「花と緑」）事務局長の中村義世さん。つられるように、同代表理事の高島邦子さんも「説明会に行って、ウチはやめておこうって言ってたのよね」と二人して笑う。

というのも、今回のプロボノプログラムはNPOのウェブサイト構築を支援するものだったが、同団体ではホームページの情報発信は限定的。日々の広報活動はブログを中心に行っていたことから、「今さらホームページを大改造するのは大変すぎる」と二の足を踏んだのだ。

ただ……。組織を客観的に眺めれば、「大きな課題はあった」と二人は口をそろえる。任意団体の活動を経て「花と緑」が発足したのは、02年。資源循環型地域の形成を目指して、生ごみの堆肥化実験を市民提案したのをきっかけに、学校給食の食べ残しに街路樹の剪定枝を混合した土壤改良材「とよっぴー」を頒布・有効活用する団体としてスタートした。活動を続けていくう

ちに、「とよっぴー」を使って花づくりを行う「花いっぱい運動」や野菜の直販活動、さらには家庭生ごみの堆肥化推進運動、「とよっぴー農園」での環境体験学習など、事業内容は多岐に広がった。多種多様な事業を展開する中で、それらを支える活動資金と人手を、今後、どう安定的に確保していくのか。発足から10年近くが経ち、組織基盤強化の問題は避けはれない課題だった。

「私たちの活動はボランティアから始まって、有機物資源を地域で循環させる小さなモデルケースをつくりたい」という思いひとつでやってきたんですね。盤石な組織ではなくても、活動が広がることに自分たちは達成感を感じていたし、むしろ無償の奉仕こそ美德とも思っていた。でも、活動を継続していくには、事業と収益のバランスを考えマネジメントしていく必要があるし、これからは無償の美德では団塊世代以下の若い人たちについてこない。自分たちの組織も変わらなアカンなと思っていたんです。会員数の拡大やボランティアの裾野を広げるには広報活動が大事だけど、ホームページはほとんどアクセスがない状態で、かといってリニューアルするには自分たちでは限界がある」そこで、「プロボノチームにお願いし

てみることにしたんです」と中村さんは當時を振りかえる。

### ユーザー目線。 活動への参加、誘発するホームページ

支援を受け入れたのは、昨年4月。プロボノを希望していた5人がマッチングされ、「週5時間程度、約6ヶ月間」の活動を自らにプロジェクトがスタートした。チームはオールパナソニック社員だったが、職場や職種も違い、全員が初対面。プロボノには、それぞれの思いで参加していた。

「普段の仕事以外の世界にアンテナを張る中で、NPOのマネジメントに興味があった」というのは渡辺久晃さん。一方、仕事に余裕ができ、興味本位で参加したという藤原智子さんは「経営企画という仕事柄、自分にもできることがあるかもしれない」と思った。また、大坪里実さんは「子育てと仕事場の往復で、社会的な視野の狭さを感じて、自分の勉強のために参加した」と話す。

チームは、まずホームページのコンセプトづくりのため、団体を取り巻く66組のステークホルダーにヒアリング、アンケート調査を行ったが、その中で「花と緑」の活動が地域の人々にいかに大切にされているかを実

感した。「ここだけの話、団体への不満や要望は?」と聞いても、返ってくるのは感謝の言葉ばかり。誰一人、悪く言う人がいないのは驚きだった」「イベントに参加する子どもの笑顔と、それをうれしそうに見ているボランティアの方々の姿がとにかく印象的。こんなふうに陰で地域を支えているNPOがあるんだと思った」

マーケティング調査を経て、チームは中間提案を行い、その後、具体的な制作に入った。プロジェクトマネージャーを務めた渡辺さんは、「ホームページを通じて会員やボランティア層を拡大したい」という要望だったので、団体のニーズやターゲットを整理して詳細な分析・検討を行いました。特にホームページの構成や文面は、見る人のユーザー目線を意識して、一般の人の関心事を軸に惹きつけていく内容にした」と話す。

一方、団体側の高島さんは、プロボノの仕事ぶりに終始、感心しきりだったという。「最初は、客観的にアドバイスをくれるんだろうぐらいの受身姿勢でしたが、きっちりチームを組んで、一つひとつ丁寧に問い合わせてくれて、資料も期限通りに直球勝負でボーンと返ってくる。もう、本当にプロやと思いました。そういうのを目の当たりにすると、自分たちはちょっと甘えたところがあったかなと。文章を書く時も、私たちの場合は思いが先行して『自分たちは、こうします』的な表現



大坪里実さん



渡辺久晃さん



藤原智子さん

ばかりで、それだと、見た人は『すごいね、がんばってね』で終わる。活動に参加したいと思わせるような視点が欠けていました」

### 「活動を見直す機会に」とNPO、「調整型の仕事の仕方を学ぶ」とプロボノ

お金で支援する寄付とは違い、また通常のボランティア活動とも違うプロボノ。それは、社会人がもつ「スキル」や「ノウハウ」を期間限定のプロジェクトを通して提供していく新しい社会貢献のかたちだが、何も受益者となるのはNPOだけではない。プロジェクトへの参加は、プロボノワーカーにとっても実りのある機会となったようだ。

「子どもの教育に関心をもつようになり、地元で同じような団体を見つけて地域活動に参加しようと思うほど影響を受けた」と大坪さん。藤原さんも「もともと家庭菜園をしていたので、自分もご近所さんと協力しながら、小さなところから資源循環をしていきたい」

また、渡辺さんは仕事のスキルアップにもつながると話す。「普段の仕事ではトップダウン的に仕切るので、初対面のメンバーの意見を調整し、NPOの思いに寄り添いながら、ベターな選択を積み重ねていくプロボノの仕事の進め方は新鮮だった。個人的なスキルとして、ウェブサイトの構築を学べたのもよかった」

The image shows a screenshot of the proposed new website for "Hana to Midori no Netto Waku to Yonaka". The top navigation bar includes links for TOP, 会員登録 (Membership Registration), 会員登録 (Membership Registration), ボランティアをしたい (Want to volunteer), 寄付したい (Want to contribute), and お問い合わせ (Contact). Below the navigation, there's a main banner with the text "土と野菜と社会貢献" (Soil and vegetables and social contribution) and a photo of a group of people working in a garden. The page features several sections: "土と野菜と社会貢献" (Soil and vegetables and social contribution), "土をつくる" (Creating soil), "野菜をつくる" (Growing vegetables), "仲間と社会貢献" (Community and social contribution), "食育" (Food education), "初めての菜園づくり" (First vegetable garden), "新鮮野菜料理" (Fresh vegetable cooking), "花のまちづくり" (Flower city building), and "とよっぴー農園" (Toypipi Farm). On the left, there's a sidebar for "イベントのご案内" (Event Information) with details about events like "野菜作り" (Vegetable growing) on April 10th and "花と緑の野菜作り" (Hana to Midori vegetable growing) on April 13th. There are also sections for "ログイン" (Login), "会員登録" (Membership registration), and "新規会員登録" (New member registration). At the bottom, there's a copyright notice: Copyright(c) Hana to Midori no Netto Waku to Yonaka All Right Reserved.

Panasonic